



忍者体験、「聖地巡礼」など日本文化体験型旅行が鍵 「インバウンド観光の現在」シンポジウム開催

追手門学院大学（大阪府茨木市：学長 坂井 東洋男）は、外国人観光客の増加、特に関西への旅行者の増加を受けて、「インバウンド観光の現在」と題し1月19日(木)にシンポジウムを開催します。

2016年度の訪日外国人旅行者数は2,000万人を超えました。関西国際空港の2016年2月の外国人入国者数が1994年の開港以来、初めて成田空港を上回りました。真田丸人気が続く中、大阪城への来場者は200万人を超えますが、その約4割は外国人です。旅行の目的も、「爆買」と呼ばれた富裕者層による買物から、中間所得者層による体験型旅行へシフト、観光の定番スポットも変化しています。一方、国内では大ヒットしている映画「君の名は。」に代表される、物語の舞台を巡る「聖地巡礼」が観光の起爆剤として注目を集めています。本学は、2017年度より国際教養学部にあるアジア学科を国際日本学科に改称し、2018年度にはクールジャパン学コースを設置します。

当シンポジウムでは、増加する外国人観光客向けの新しい「観光」としての聖地巡礼に代表されるコンテンツツーリズムの可能性についても考えます。

報道関係の皆様におかれましては、ぜひ当シンポジウム取材くださいますようお願いいたします。

1. 名称 シンポジウム「インバウンド観光の現在」
2. 日時 2017年1月19日(木) 14:30-16:30
3. 会場 追手門学院大学 5号館6階 5605教室
※大阪府茨木市西安威 2-1-15
4. プログラム 「コンテンツツーリズムとインバウンド観光」経営学科 井出明准教授
「体験型日本文化のすすめ」基盤教育機構 齊藤一誠教授
「大阪城と温泉。地理的・文化的魅力再発見。ー海外にも温泉はありますー」アジア学科 筒井由起乃准教授
パネルディスカッション コーディネーター：豊島真介教授
5. 対象 公開講座 ※本学学生その他、一般の方も受講可能
※入場無料・事前申込不要 定員150名

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 坂倉・塩田